

高知新聞 2019. 11. 15 08:31

2019高知県知事選 与野党の幹部が続々と応援に 党首クラス、官房長官も

野党統一候補の共産党高知県委員、松本顕治氏（35）と、自民党、公明党が推薦する元総務官僚の浜田省司氏（56）が一騎打ちを展開する高知県知事選は、24日の投開票に向けて与野党幹部が続々と応援に入る。特に、この知事選を野党共闘の前進と安倍政権打倒につなげたい野党勢は、党首クラスを次々と投入する構えだ。

松本氏は立憲民主党高知県連、国民民主党高知県連、共産党、社民党各党から推薦を受ける。立憲民主党、国民民主党も国政選挙並みの支援をすることでしており、国民民主党の玉木雄一郎代表が16日、立憲民主党の枝野幸男代表は21日に高知入りする予定。17日には共産党の志位和夫委員長、16日には社民党の福島瑞穂副党首も駆け付ける。18日には野田佳彦前首相、20日には旧民主党や自由党の代表などを務めた小沢一郎氏が高知を訪れる。

一方の浜田氏を推す自民党も、7日の出陣式に出席した下村博文党選対委員長が「国政に直結する大切な知事選になってきた」と話すなどこの知事選を重視。17日には菅義偉官房長官が入り、高知市で街頭演説を行う。

ここまで多数の政党幹部が高知を訪れるのは知事選では異例。与野党対決のムードが盛り上がる半面、県政のリーダーを選ぶ地方選挙に国政の対立が持ち込まれることに有権者の違和感が広がる可能性もある。（大山泰志）

しんぶん赤旗 2019年11月15日(金)

“勝利の流れとともに” 高知県知事選 松本氏を京都の会が推薦



(写真) 松本知事候補の

推薦決定通知書を手渡す(右から)小林、梶川の両氏と、それを受け取る(左から)春名、田口の両氏＝14日、高知市

来年市長選を迎える京都市の「民主市政の会」の梶川憲代表委員(京都総評議長)と小林竜雄事務局長(京都自治労連書記長)は14日、高知市の松本けんじ知事候補の選挙事務所を訪ね、松本候補の推薦決定通知書を手渡しました。

高知県版の市民連合「高知憲法アクション」呼びかけ人の田

口朝光氏、日本共産党の春名直章県委員長、佐藤彰書記長が応対しました。

推薦書は「だれ一人取り残さない」「県民一人ひとりの人権と尊厳を大切にする県政」実現を目指す松本候補らに敬意を表し、勝利へ向け、「安倍政権の政治のもとで、県民の命、暮らしを守る自治のため、ともに頑張る」と表明しています。

梶川氏は「いてもたってもいられず来ました。来年1月19日告示で京都市長選があります。高知が勝てば間違いなく地方から市民と野党の共闘の流れができます」とエールを送りました。

春名氏は「ありがとうございます。全力を尽くします」と応じました。田口氏は、選挙情勢やこの間の高知での市民と野党の共闘の深化について話しました。

しんぶん赤旗 2019年11月15日(金)

高知県知事選 女性らプラスタ宣言 松本さんと県政変える



(写真) プラスタ宣言をす

る大串氏(右はし)ら＝14日、高知市

高知県知事選(24日投票)での野党統一の松本けんじ候補の勝利をめざして県労連と「一票で変える土佐の女たち」のメンバーらは14日、昼休み中の労働者らが行きかう高知市の丸ノ内緑地公園前の交差点で、プラスタ宣言をしました。立憲民主党幹事長代理の大串博志衆院議員が応援に駆け付けました。

参加者は「あなたと野党の共同でだれ一人取り残さない県政へ」と書いたのぼりや「ここでいっしょに生きよう！」と大書したプラスタを掲げ、「選挙に行こう」などと呼びかけ、法定ビラを手渡しました。会釈してビラを受け取り、すぐに目をやる姿などが見られました。

ビラを受け取った男性(80)は「自民、公明の推す候補は政府言いなりになると思う。松本さんに、憲法を守り、民主教育を進め、福祉を大事にする県政を期待します」と話しました。参加した女性(65)は「街角で声も出して、雰囲気盛り上げて知事選への関心高め、松本候補の政策を広め、投票率を上げていきたい」と語っています。

高知新聞 2019. 11. 15 08:32

2019高知県知事選 私はこちらする(7)教育政策

子どもたちの学力向上は長年の懸案で、近年はいじめ・不登校も深刻化しています。解決に向けた教育政策を示してください。

高知新聞 2019. 11. 15 08:32

2019高知県知事選 高知県の「現在地」県政ポイント解説(2)



松本顕治 無所属・新 (立憲民主党高知県連、国民民主党高知県連、共産党、社民党推薦)

「地域づくりは人づくり」が基本です。子どもの「不思議だな」「もっと知りたいな」という思いを大切にできる教育環境、自分の思いや意見を言葉にできる力を持てるような環境を整えます。

学力テスト(学テ)の全国順位、点数対策に追われる教育でなく、教員を増やし、子どもの疑問や知りたい思いに寄り添える時間的、人力的余裕のある学校現場をつくれます。

県版学テは廃止し、必要な教育条件整備に予算を回します。高知市内に特別支援学校を新設するなど障害児教育を充実させます。

学校はコミュニティーの核です。小規模校への支援を強化します。高校生に不利益をもたらす大学入試への民間英語検定導入は完全撤回を求めます。



浜田省司 無所属・新 (自民党、公明党推薦)

子どもたちが夢や志を実現するための「生きる力」を育むには、就学前から小・中・高校までの学校教育はもちろん、地域における社会教育や文化・スポーツなどを通じた生涯にわたる学びが大変重要であり、教育の充実は、県民にとっても、高知県勢の発展に向けても、欠かすことのできないものです。

教育政策については、総合教育会議などの場において、教育委員会としっかり協議を行ってまいります。

次期教育大綱でも、中山間地域をはじめとした各地域でのデジタル化社会に向けた教育の推進、個人の状況に応じた必要な支援の充実によるいじめや不登校などへの対応の強化に努めるとともに、教員の働き方改革を進めてまいります。

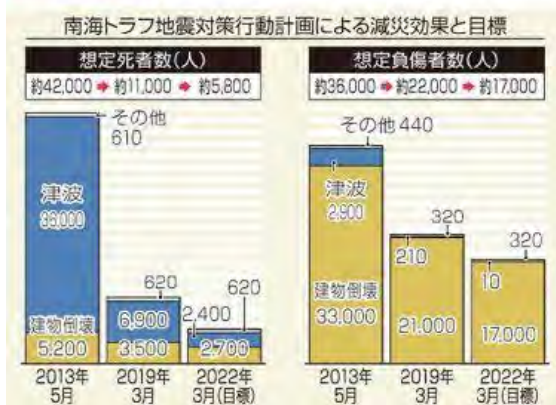
15日の候補者

【松本候補】四万十市、四万十町

【浜田候補】香美市、香南市

▼政見放送

	2011年度	現状	2022年3月の目標
津波避難タワー	8基	111基 (93%)	119基 (100%)
避難路・避難場所	152カ所	1445カ所 (100%)	達成済み
住宅耐震化率	73% 実績659戸	82% ※2018年度 実績1911戸	87% ※2019~21年度 で計4500棟
要支援者 個別計画策定率	-	11.8%	沿岸19市町村の モデル地区で策定
福祉避難所の確保	約2800人分	約9400人分 (31%)	約15000人分 (50%)



【地震対策】「犠牲ゼロ」へ課題多く

2011年の東日本大震災を受けて、高知県は南海トラフ地震に備えた取り組みを加速し、被災から復興までを見据えた対策を網羅的に洗い出してきた。

県が最初に注力したのは「命を守る」対策だ。地震対策の“一丁目一番地”と位置付けた住宅の耐震化は、補助額の増加や低コスト工法の普及もあって右肩上がりが続く。

津波避難タワーや避難路・避難場所の整備も、県独自の交付金制度を設けるなどして市町村の整備を後押し。その結果、県が想定する死者数は、2013年に4万2千人だったのが、2018年度までに74%減の1万1千人に抑えられた。2019年度から3カ年の第4期南海トラフ地震対策行動計画では、5800人に半減させる目標を設定した。

「命を守る」対策をより深化させていく上で鍵となるのは、高齢者や障害者ら要支援者への対策だ。

一人一人の避難方法を事前に決める個別計画の策定率は、9月末時点で11.8%。福祉避難所の確保も、必要とされる約3万人分(うち半数は介助者)の3割にとどまる。

東日本大震災では、60歳以上の死者が全体の6割を占めた。近年の豪雨災害でも高齢者が犠牲となる事例が多く、個別計画などを通じた救助・避難態勢の強化は、犠牲者の低減に欠かせない。

今後の重点は、避難所運営や災害時医療救護などの「命をつなぐ」対策、さらには復旧・復興の「生活を立ち上げる」対策に移っていく。不足が想定される仮設住宅の建設用地や災害廃棄物の仮置き場の確保、被災後のまちづくりをイメージす

るための指針づくりなど、クリアすべき課題はなお多い。

県がはじき出す減災効果を“机上の数字”に終わらせないためには、県民の防災意識の向上も欠かせない。ただ、2018年県が行った県民意識調査では、住宅の耐震診断を受けたことがない人は73%、過去1年間の防災訓練への不参加も56%と過半数を占めた。

尾崎県政が掲げた「人的被害を限りなくゼロに近づける」との目標は、県民や市町村の間でどれだけ深く共有できているか。南海トラフ地震は今後30年以内に70～80%の確率で起きるとされ、万全の備えが求められている。(報道部・海路佳孝)

高知新聞 2019. 11. 15 08:31

2019高知県知事選 合同個人演説会の提案に浜田陣営「困難」

無所属新人の一騎打ちとなっている高知県知事選（24日投開票）で、野党統一候補で共産党高知県委員の松本顕治氏（35）の陣営が申し入れていた合同個人演説会の開催について、自民党、公明党の推薦を受ける元総務官僚、浜田省司氏（56）の陣営は14日までに「日程変更が困難」として、提案を見送る意向を伝えた。

松本陣営は10日付で合同演説会を提案。浜田陣営は13日に文書で回答した。文書では「個人演説会を随所で予定しており、既に最終日までの日程が完結している」「時間の有する限り、1人でも多くの皆様に政策や主義主張を訴えたい」とした。松本陣営は「開催に至らず残念だ」としている。(大山泰志)